

「つながる北陸」新幹線レポート：vol.5 敦賀駅

北陸新幹線敦賀開業を契機とした持続可能な地域づくり
ー シン・新幹線効果に向けて ー

【要旨】

- ・ 2024 年 3 月 16 日の北陸新幹線敦賀開業により、敦賀～東京間が新幹線で結ばれる。当面の始発・終着駅となる敦賀駅は、敦賀市が古来より海陸交通の要衝で嶺南地方の中心都市として栄えてきたことから、同地方の玄関口たる機能を更に発揮することが期待される。
- ・ 福井県敦賀市は、古くから敦賀港とともに発展、原発立地等に伴いエネルギー供給都市としての性格も合わせ持ち、人が集まる地域である。しかしながら、民間消費は流出傾向にあり、拠点性が必ずしも地域の稼ぐ力に結びついておらず、北陸新幹線敦賀開業を契機に、まちづくりなどを通じて新たな消費機会を創出する仕組みが求められる。
- ・ こうした背景もあり、敦賀市では、敦賀開業を契機としたまちづくりに向け、早くから官民・市民との対話を進め、来訪者だけでなく地元の人々が交流する拠点やまちづくりに関わる人材を整備・育成してきた。日常生活の魅力を底上げしつつ、来訪者への訴求力も高める好循環を生み出し始めている。
- ・ また、2022 年に環境省から北陸三県で初の「脱炭素先行地域」選定を受け、脱炭素と中心市街地活性化の両立など、北陸新幹線開業を契機とした脱炭素へのパラダイムシフトに向けた取組みを行うことで、持続可能な地域を構築しようとしている。
- ・ 敦賀市のこれらの持続可能な地域づくりは、嶺南エリアが有する豊富な自然環境資源と相まって北陸地域の中で独自のポジションを獲得することにもつながる。
- ・ 持続可能性に対する意識は高まっており、「サステナブル観光」は、世界のみならず日本においても、その推進が謳われている。世界的には、観光事業者の間では既に「取り組んでいて当たり前」の概念になっており、持続可能性を軸に地域を打ち出すことは、今後旅行先として選ばれるための外せない要素の一つとなろう。
- ・ 持続可能な観光に向けては観光サービスの付加価値額を示す「観光 GDP」を高めていく必要があるが、人口一人当たり観光 GDP をみると、北陸全体では 14.7 千円と都道府県平均を下回っており、新幹線開業を契機に拡大する余地は十分にある。そのためには、歴史や伝統・文化、風土、地形といった有形無形の地域資源を活かしそれぞれの地域の個性を高め、その個性を北陸全体の魅力向上に繋げていくことが大切だ。
- ・ あわせて、地域住民の日常生活向上の視点も忘れてはならない。新幹線開業をきっかけとした「持続可能な地域づくり」こそが重要であり、新幹線が地域にもたらす真の効果といえよう。単なる集客に留まらない、持続可能な地域づくりに繋がる観光振興に北陸一体で取り組むことで、北陸の観光産業の高付加価値化、ひいては北陸の地域力向上に繋がることを期待したい。

(北陸支店 飯田一之・宮原吏英子)

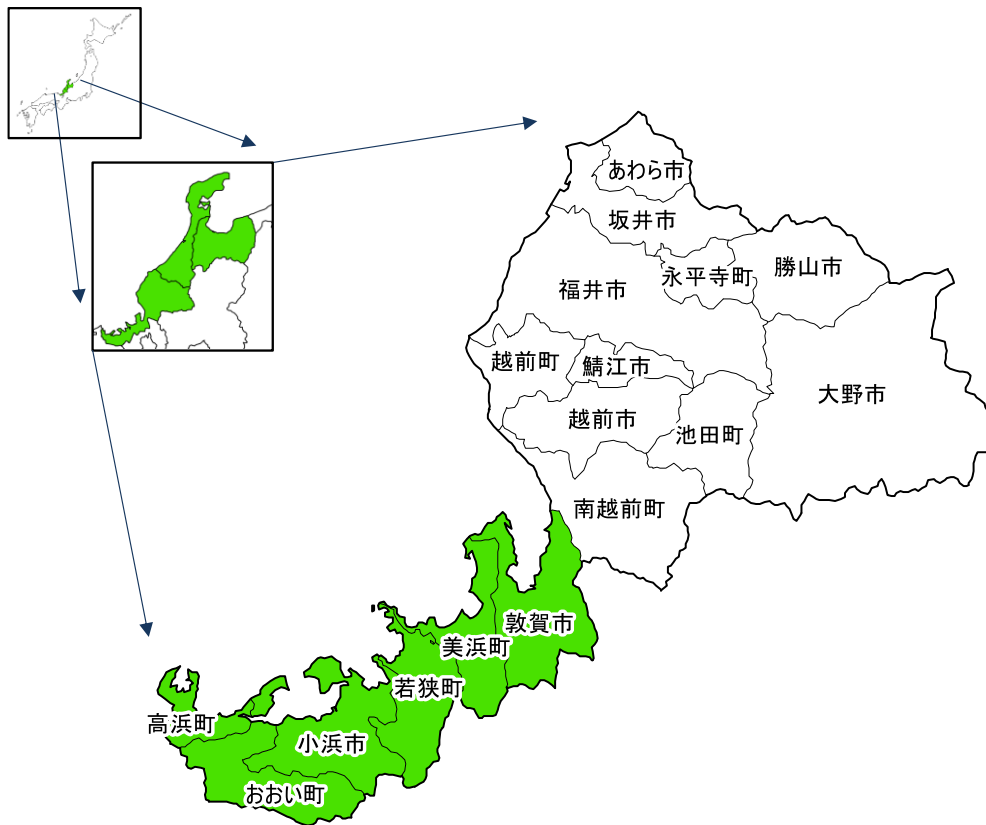
2023 年 12 月

株式会社日本政策投資銀行北陸支店
(協力：株式会社日本経済研究所)

「つながる北陸」新幹線レポートシリーズについて

北陸新幹線敦賀開業に伴い、新たに6つの駅（小松駅、加賀温泉駅、芦原温泉駅、福井駅、越前たけふ駅、敦賀駅）が設置される。(株)日本政策投資銀行北陸支店では、2022年度から4回にわたり、敦賀開業を迎える北陸地域の各エリアに焦点をあて、北陸新幹線開業が地域にもたらす影響や変化、開業効果を最大限に活かす視点について考察するレポートを取りまとめてきた。第五弾(最終回)となる本稿では、北陸新幹線当面の始発/終着駅である敦賀駅を取り上げる。

福井県嶺南(れいなん)地方



(出所) 当行グループ作成

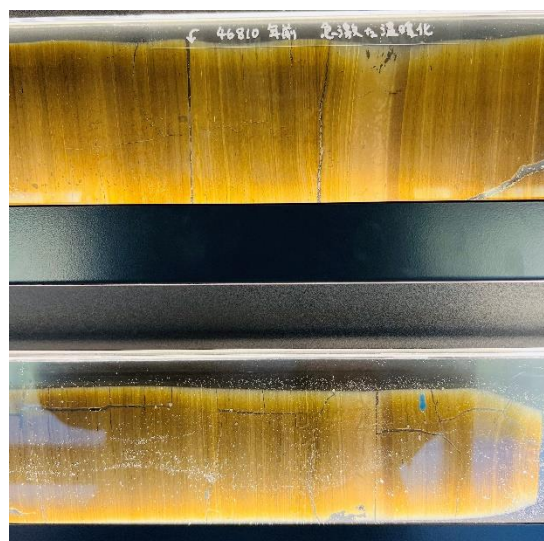
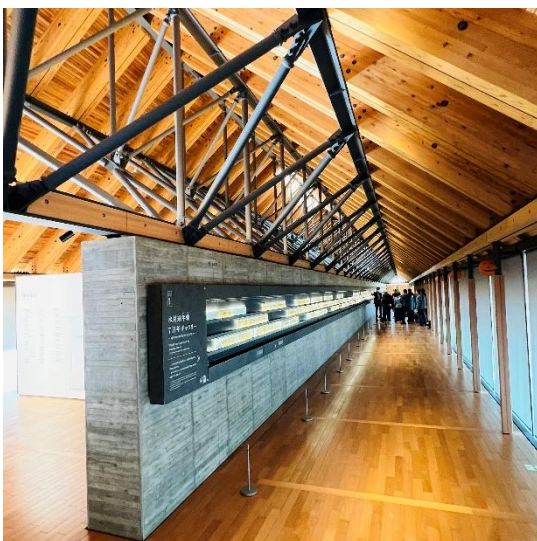
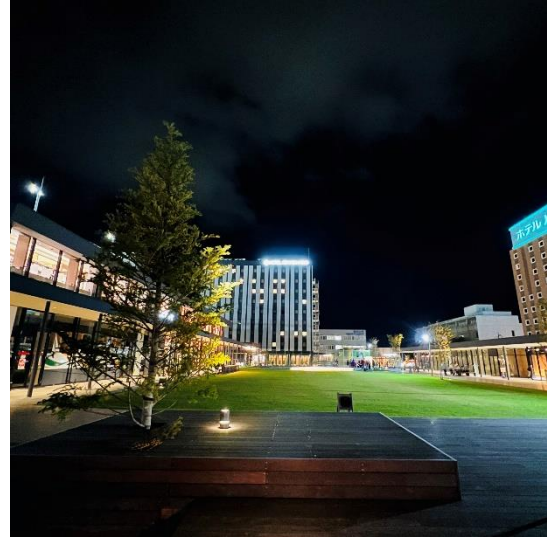
目次

1. 北陸新幹線敦賀開業によりつながる北陸
2. 敦賀駅の概要と役割
3. 敦賀市の地域経済
4. 開業を契機とした「持続可能な地域づくり」に向けた動き
5. 嶺南エリアのポテンシャル
 - (1) 「脱炭素先行地域」選定がもたらす影響
 - (2) 豊富な自然環境資源と北陸地域における位置づけ
 - (3) サステナブル観光
- (参考) 北陸新幹線敦賀開業の環境価値（試算）
6. 眞^シの新幹線効果へ向けて ～開業を契機とした「持続可能な地域づくり」～

【Appendix】

1. 観光業を起点に広がるカーボンニュートラル
2. 北陸新幹線敦賀開業により新たに設置される駅の概要
3. これまで公表した新幹線/観光関連の当行レポート

【嶺南エリア六景】

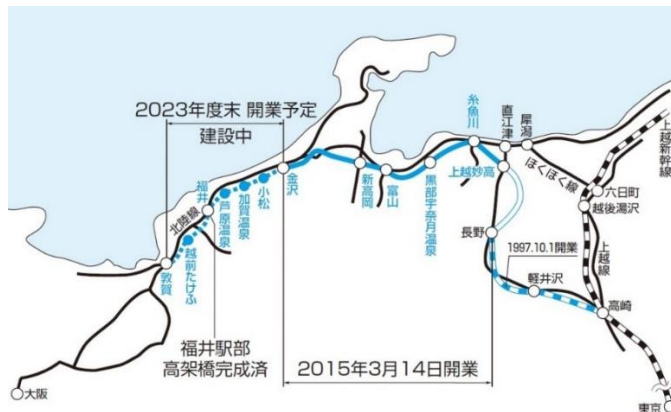


(写真) 上段左「氣比神社」、上段右「TSURUGA POLT SQUARE “otta”」、中段左「三方五湖・天空のテラス」、中段右「ゴイチバス」、下段左・右「年縞博物館」(撮影：当行 飯田一之)

1. 北陸新幹線敦賀開業により'つながる'北陸

- 2024年3月16日の北陸新幹線敦賀開業日が迫ってきた。敦賀開業により福井県と首都圏が繋がるだけでなく、2015年の金沢開業以降、金沢駅での乗り換えを余儀なくされていた北陸三県(富山県、石川県、福井県)が新幹線で再び繋がり、県都間は1時間以内で結ばれることとなる。北陸地域内の交流促進が期待されるほか、域外からの来訪者増加により地域経済が活性化することはもちろん、人流や物流、心象風景が大幅に変容することから、北陸全体に大きな変化をもたらすことが予想される【図表 1-1】。
- 当行ではこれまで「つながる北陸」をテーマに、敦賀開業を迎える北陸地域の各エリアに焦点をあて、北陸新幹線開業が地域にもたらす影響や変化、開業効果を最大限に活かす視点について考察するレポートをシリーズで公表してきた【図表 1-2】。各レポートではそれぞれ異なる地域を取り上げているが、いずれも、
① 新幹線を契機に北陸を訪れるヒト・モノ・情報を、北陸域内で広く循環させ、地域への波及を高め、持続させる視点、
② 北陸が一体感を持って打ち出すこと の重要性を訴えている。
- 本稿はシリーズの最終として、当面の終着・始発駅となる敦賀駅を取り上げる。敦賀市のまちづくり事業や、敦賀駅を玄関口として嶺南エリアに広がる自然環境資源を活かした新たな観光の可能性を探るとともに、新幹線開業を契機とした北陸地域の「持続可能な地域づくり」について考察したい。

図表 1-1：北陸新幹線敦賀開業の概要（ルート図）



(出所) 西日本旅客鉄道(株)提供

(注) 西日本旅客鉄道(株)及び東日本旅客鉄道(株)は、北陸新幹線敦賀開業日を 2024 年 3 月 16 日として発表した。
(2023 年 8 月 30 日リリース)

図表 1-2：これまでの DBJ レポートの概要とポイント

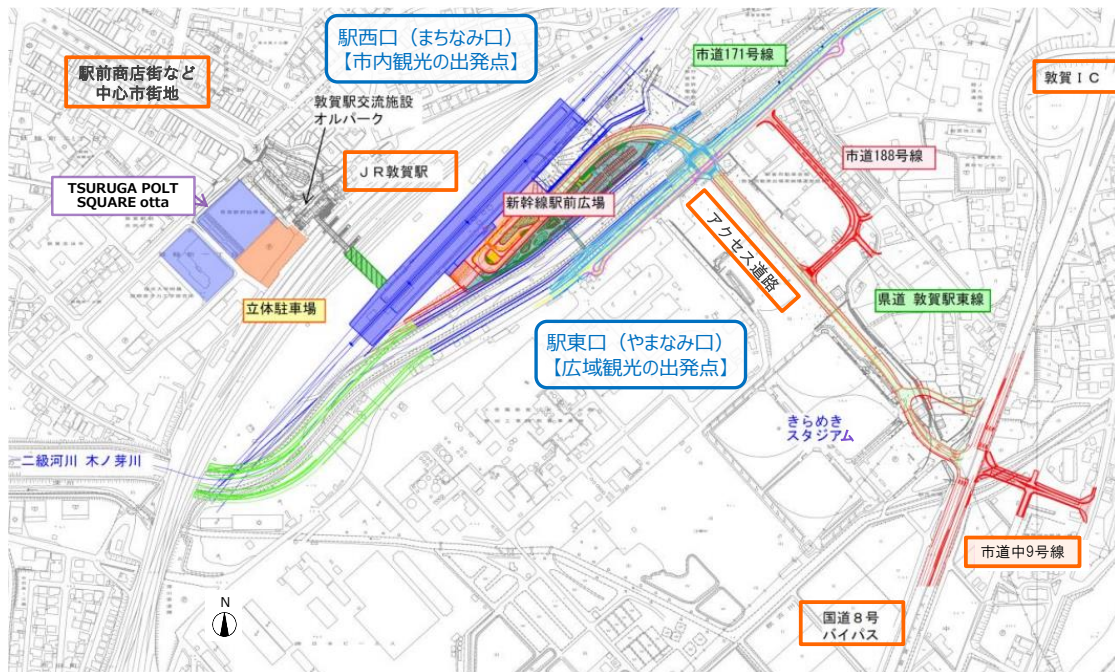
駅名	レポートタイトル	概要・ポイント	公表時期
1 越前たけふ駅	“the ECHIZEN” – 越前たけふ駅が呼び覚ます ゲニウス・ロキー	新たな駅が地域にもたらす効果や役割を考察。産業構造や地域資源の分析から、既存駅との役割分担の必要性や、新たなナレッジの取込みによるイノベーション創出への期待等について提示。	2022年9月
2 福井駅	北陸新幹線敦賀開業に関する北陸・首都圏・関西在住者の意識調査 – 福井が開業効果を最大限活かすために –	当行が実施した「北陸新幹線敦賀開業に関する意識調査」の結果から、福井駅開業の効果を最大限に活用するための方策を考察。	2022年11月
3 金沢駅	北陸新幹線敦賀開業による石川県内への経済波及効果 – 経済波及効果は推計279億円、金沢駅のハブ機能を高め全域への波及を –	敦賀開業による時間短縮効果が石川県にもたらす経済波及効果を推計。開業効果を北陸全域に波及させるポイントを整理するとともに、金沢駅が果たす役割について考察。	2023年4月
4 小松・加賀温泉・芦原温泉駅	北陸新幹線敦賀開業を契機とした温泉地のリブランディングに向けて – “伝統と新しさ”により、多様な顧客の獲得を –	新幹線開業を契機とした北陸温泉地のリブランディングに向けた示唆を、開業先行地の取り組み等を参考に整理。伝統をベースにしながらも、これまでの概念にとらわれない、新しい魅せ方・楽しみ方の提示(温泉地のアンラーニング)を期待。	2023年9月

(出所) 当行作成。いずれのレポートも、当行ウェブサイトで全文をご覧ください。

2. 敦賀駅の概要と役割

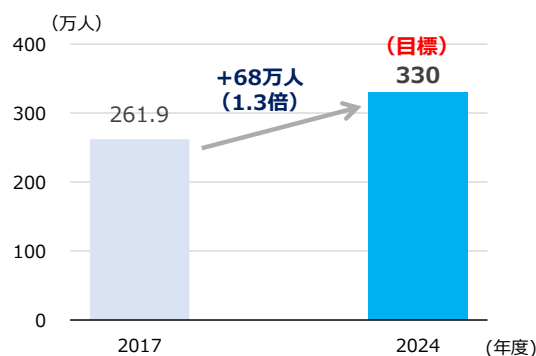
- ・ 北陸新幹線の当面の始発/終着駅となる敦賀駅は、首都圏、京阪神、福井・小浜方面から人々が行き交う「交通の要衝」としての位置づけが高まる。また、敦賀駅と国道・高速道路 IC を結ぶバイパスの整備も進み、駅へのさらなるアクセス向上が見込まれる。
- ・ 敦賀市が 2019 年に定めた「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」(2023 年更新)では、2024 年の敦賀駅の乗降客数を 330 万人(2017 年度 261.9 万人)と目標値を掲げている。
- ・ 駅の東口は広域観光の出発点として、十分な大型バス待機スペースの確保など遠方からの修学旅行や広域周遊、団体旅行等に対応する。一方の西口は市内・近隣観光の出発点と位置づけ、敦賀市内や嶺南エリア(敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、高浜町、おおい町)への誘客を想定した整備が進められてきた。新幹線開業により、敦賀駅は嶺南エリア観光の玄関口としての機能がさらに発揮されることが期待される【図表 2-1】。

図表 2-1：敦賀駅の概要



(出所)「敦賀市観光振興計画 2023 年度→2025 年度」図 11 上段 より当行グループ作成

【開業後の敦賀駅乗降客数（目標値）】

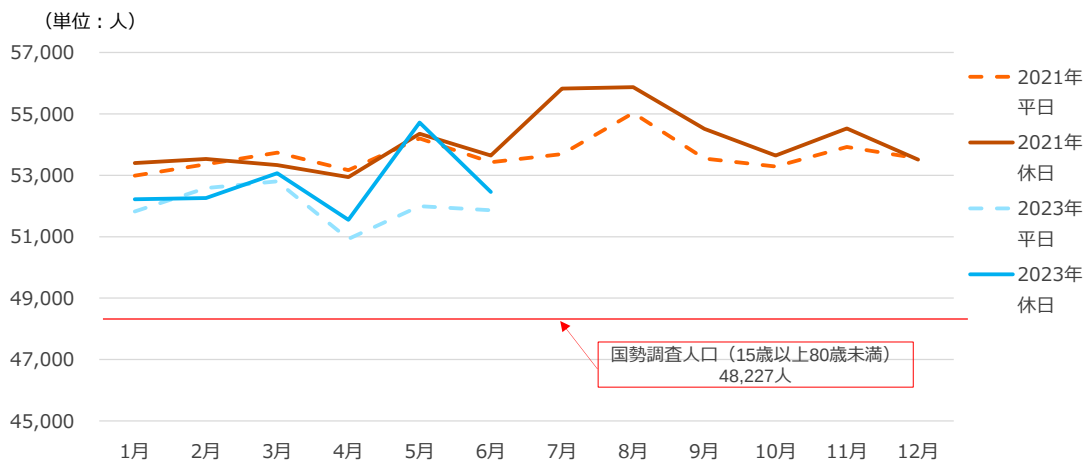


(出所) 敦賀市「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」より当行グループ作成

3. 敦賀市の地域経済

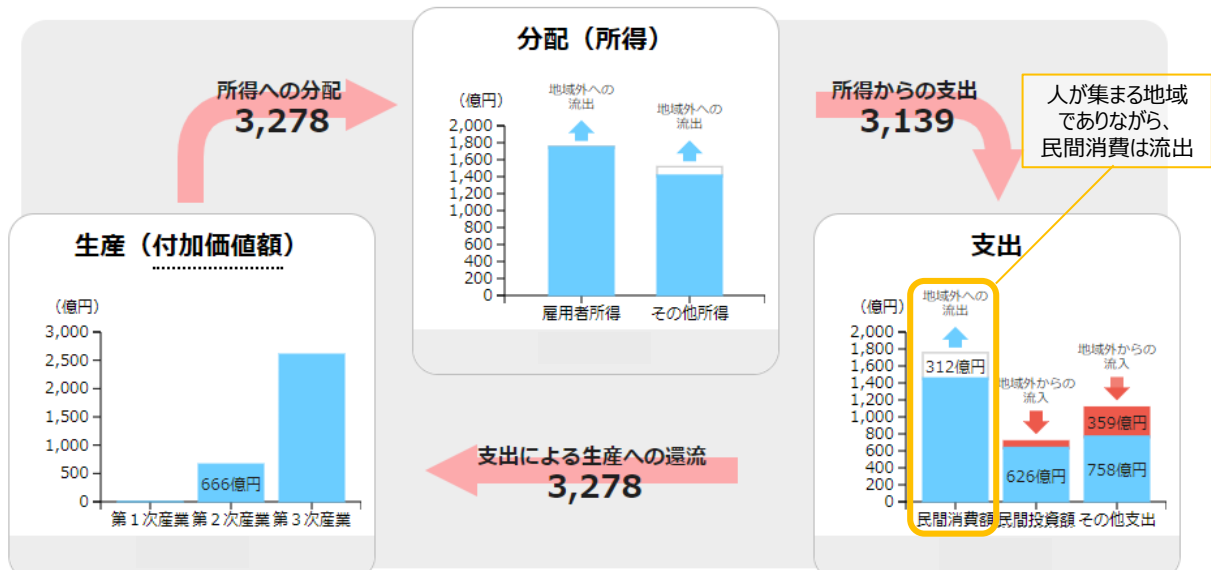
- ・ 敦賀駅を有する福井県敦賀市は、古くから敦賀港とともに発展、嶺南エリアの代表都市として栄えてきた。原発立地等に伴うエネルギー供給都市としての性格も合わせ持ち、人が集まる地域である【図表 3-1】。
- ・ 一方、敦賀市の地域経済をみると「民間消費」は流出傾向にあり(2018 年▲312 億円)、現状は、域外からの来訪者や地域住民の消費意欲を地域で十分に賄うことが出来ていない。新幹線開業を契機に、観光の産業化やまちづくり、さらにそれに携わる人材の育成などを通じて新たな消費機会を創出する仕組みが求められる【図表 3-2】。

図表 3-1：敦賀市の滞在人口（2021 年 1～12 月、2023 年 1～6 月）



(出所) RESAS (株)NTT ドコモ・(株)ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」より当行グループ作成
(注)「滞在人口」は、15 歳以上 80 歳未満を対象。

図表 3-2：敦賀市の地域経済循環図（2018 年）



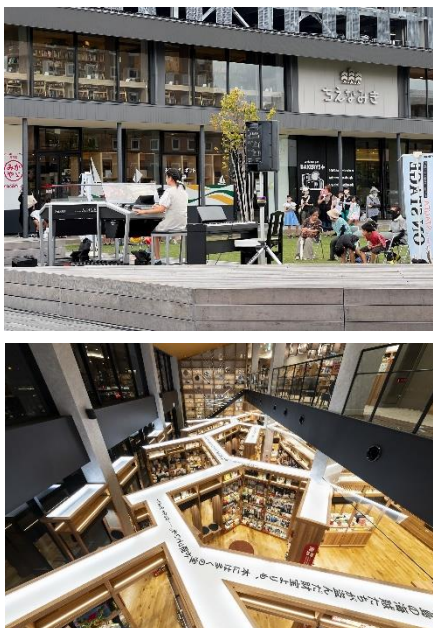
(出所) 環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(当行グループ)受託作成)により当行グループ作成

4. 開業を契機とした「持続可能な地域づくり」に向けた動き

- ・ 敦賀市では、誘客施策のみに偏らず、開業を契機としたまちづくりに向け、早くから市民との対話や、福井県・敦賀市・敦賀商工会議所・青年会議所等、官民での議論・取組みを進めてきた。そのなかから、以下2点に触れたい。
- ① **敦賀駅西地区土地活用事業：市民と来訪者の拠点「TSURUGA POLT SQUARE "otta"」**
- 新幹線を迎えるにあたり、駅西地区を「来訪者が立ち寄る玄関口」としてだけでなく、「市民が普段使いできる居場所」としての役割を重視。市民との対話を繰り返し、知育・啓発、子育て支援、交流・サービスといった住民が求める機能と、飲食・物販・宿泊など来訪者も意識した機能を備えた新たな拠点「TSURUGA POLT SQUARE "otta"」を、官民連携で整備した(2022年9月オープン)。新幹線開業前にも関わらず、来場数は1年間で70万人を突破。
- また、otta内に「知育・啓発施設」として整備された公設民営書店「TSURUGA BOOKS & COMMONS(ちえなみき)」は、市民の学びと交流の拠点として2022年9月にオープン。7か月間で約19万人と、当初想定を大幅に上回る客が訪れている。
- ② **まちづくりの担い手発掘・育成「敦賀をひろげるプロジェクト」**
- 開業の盛り上がりを一過性のものとせず、まちづくりの担い手の発掘・育成を通じて将来にわたるまちづくり人材が育つ仕組みを作るプロジェクト(2021年度：1期生28名。2023年度：2期生23名(11月末現在))。半年間のワークショップを通して、地域の将来像を語り、アイデアを持ち寄り、実践しながらまちに賑わいを生み出す人材を育てるとともに、ネットワーク構築にも繋げている。
- ・ いずれも、住民の日常生活の向上により地域(まち)の魅力を底上げしつつ、来訪者への訴求力も高める好循環を生み出すものであり、「新幹線開業を契機とした持続可能な地域づくり」に関係者一体で挑戦しているといえよう。

図表 4-1：敦賀市のまちづくり事業（写真）

- ① TSURUGA POLT SQUARE "otta" とちえなみき ② 敦賀をひろげるプロジェクト



(出所) いずれも敦賀市提供

5. 嶺南エリアのポテンシャル

(1) 「脱炭素先行地域」選定がもたらす影響

- ・ 敦賀市は、2022年に北陸三県の自治体で初の「脱炭素先行地域」として環境省の選定を受け、「北陸新幹線開業を契機とした脱炭素へのパラダイムシフト」に取り組むことで、持続可能な地域を構築しようとしている。
- ・ 北陸電力(株)(地域の電力会社)や(株)福井銀行(地域金融機関)らとマネジメントチームを結成し、中心市街地の脱炭素化に向け取り組む。新幹線開業の象徴的エリアとなる駅西地区から中心市街地集客施設、さらには敦賀港までのエリア全体への波及を目指しており、選定を契機としたこれらの取り組みにより、中心市街地における新サービスや雇用創出、脱炭素化と活性化の両立が図られるだけでなく、「サステナブル」を軸とした新たな地域価値の創出も期待できる【図表 5-1-1】。

図表 5-1-1：敦賀市 脱炭素先行地域「北陸新幹線開業を契機とした脱炭素化へのパラダイムシフト」

【計画概要】

提案計画名	北陸新幹線敦賀開業を契機とした脱炭素化へのパラダイムシフト						
提案者	敦賀市、北陸電力株式会社						
脱炭素先行地域の対象	駅西地区・中心市街地・シンボルロード（北陸新幹線敦賀開業の象徴的エリア）						
取組全体像	・ 北陸新幹線敦賀開業の象徴的エリアとなる対象地域に再エネ電力を供給し、脱炭素化を実現 ・ また、中心市街地の商業集積地区の店舗への波及等を目指して啓発活動等を実施						
取組により期待される主な効果	・ 北陸新幹線敦賀開業をまちづくりだけでなく、産業やエネルギー政策におけるパラダイムシフトを図る転機とし、原子力発電に最適化された産業構造の複軸化という地域課題の解決に向けた取組を推進する。 ・ これによって、産業上の強みである電気業・電気機械業の再エネ事業や水素事業への進出機会の増大とともに、開業の舞台となる中心市街地において、次の効果が期待できる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>概要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中心市街地における脱炭素型事業環境フィールドの形成</td><td>環境意識の高い事業者等の進出を促し、中心市街地に新しいサービスや雇用を創出する脱炭素型事業環境フィールドを形成する。</td></tr> <tr> <td>中心市街地における脱炭素化と活性化の両立</td><td>脱炭素化を志向する事業者等の集積を促し、新しいサービスや雇用創出により活動量を増加させ、脱炭素化と活性化を両立する。</td></tr> </tbody> </table>	区分	概要	中心市街地における脱炭素型事業環境フィールドの形成	環境意識の高い事業者等の進出を促し、 中心市街地に新しいサービスや雇用を創出 する脱炭素型事業環境フィールドを形成する。	中心市街地における脱炭素化と活性化の両立	脱炭素化を志向する事業者等の集積を促し、新しいサービスや雇用創出により活動量を増加させ、 脱炭素化と活性化を両立 する。
区分	概要						
中心市街地における脱炭素型事業環境フィールドの形成	環境意識の高い事業者等の進出を促し、 中心市街地に新しいサービスや雇用を創出 する脱炭素型事業環境フィールドを形成する。						
中心市街地における脱炭素化と活性化の両立	脱炭素化を志向する事業者等の集積を促し、新しいサービスや雇用創出により活動量を増加させ、 脱炭素化と活性化を両立 する。						

(出所)敦賀市・北陸電力株式会社「北陸新幹線敦賀開業を契機とした脱炭素化へのパラダイムシフト」より当行グループ作成

【脱炭素先行地域】

民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域。

民生部門の電力需要量
II
省エネによる電力削減量
+
再エネ等による電力供給量



(出所)環境省「脱炭素地域づくり支援サイト」(<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/>)より当行グループ作成

5. 嶺南エリアのポテンシャル

(2) 豊富な自然環境資源と北陸地域における位置づけ

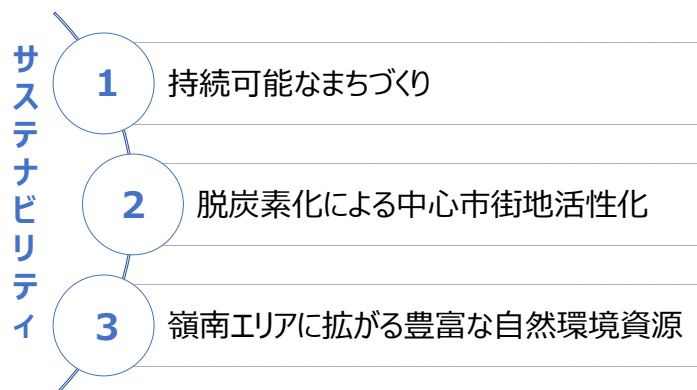
- こうした持続可能な地域づくりは、敦賀市から西に広がる嶺南エリアが有する豊富な自然環境資源とも親和性が高い。
- 水月湖の湖底に約 7 万年の歳月をかけて積み重なった縞模様の地層「年縞」をテーマにした世界初の博物館「福井県年縞博物館」(若狭町)や、アジアで初の国際環境認証「BLUE FLAG」を取得した「若狭和田ビーチ」(高浜町)のほか、ラムサール条約登録湿地である三方五湖(美浜町、若狭町)では、敦賀駅を発着し五湖を一周する路線バス(ゴコイチバス)への E V バス導入検討実証実験や再エネ遊覧船運航など環境配慮の取組みも始まっている【図表 5-2-1】。
- 嶺南エリアは、自然・環境・エネルギーに関する地域資源や取組みを結び付け「サステナブル地域」を打ち出すポテンシャルを有する地域として、北陸地域のなかで独自のポジション獲得も期待できる。さらに、こうした資源とあわせて、敦賀市のまちづくり事業や脱炭素先行地域としての取組みもまた、サステナブル地域として嶺南エリアの価値を高める要素となろう【図表 5-2-2】。

図表 5-2-1：嶺南エリアの主な自然・環境資源



(出所) (公社)福井県観光連盟「ふくいドットコム」より当行グループ作成

図表 5-2-2：敦賀から広がる「サステナブル地域」としての嶺南エリアのポテンシャル



(出所)当行グループ作成

5. 嶺南エリアのポテンシャル

(3) サステナブル観光

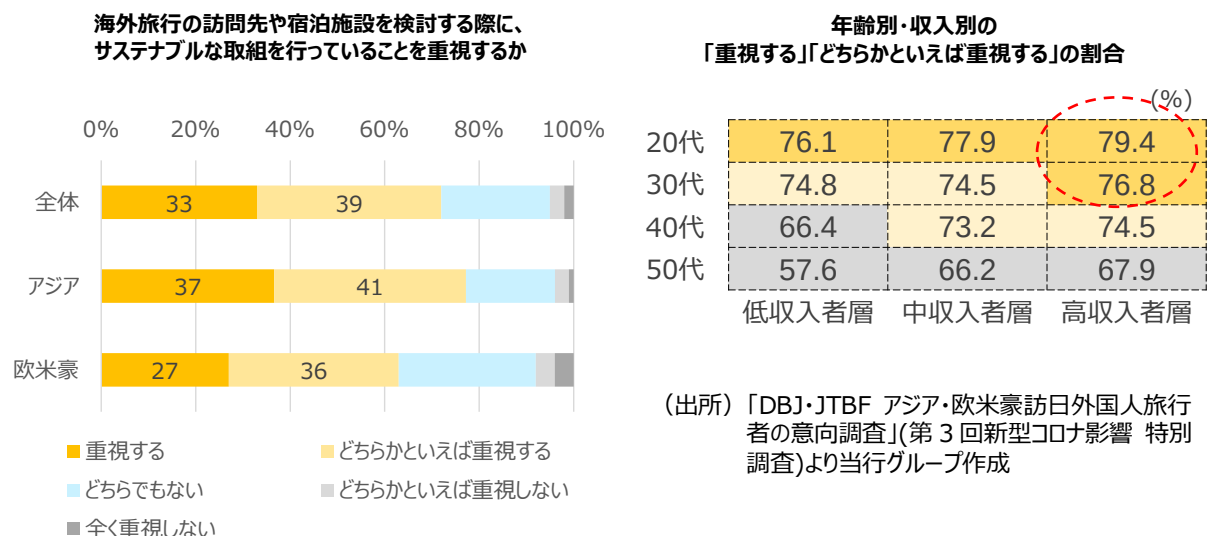
- ・ 持続可能性に対する意識は高まっており、「サステナブル観光」は世界的のみならず日本においても推進が謳われている。日本政府観光局(JNTO)が掲げる取組み方針の一つには、「地域の『環境』を守る・育む」として、環境資源を最適な形で観光に活用している事例の情報発信が挙げられている【図表 5-3-1】。こうした動きは、自然・環境資源に触れる体験活動を多く提供できる嶺南エリアにとって、観光旅行のみならず、修学旅行先としても選ばれる地域になり得るのではないかと。特に教育県たる福井県で打ち出す意義はあると思われる。
- ・ 当行地域調査部及び(公財)日本交通公社が実施した調査「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(第3回新型コロナ影響 特別調査)」によると、外国人旅行者の「訪問先のサステナブルな取組み」を重視する意向は 7 割程度であるが、事業者へのヒアリングによると、世界的には観光事業者らの間でサステナブル観光は既に「取組んでいて当たり前」ともなっている。持続可能性を軸に地域を打ち出すことは、今後旅行先として選ばれるための外せない要素の一つとなろう【図表 5-3-2】。

図表 5-3-1：日本政府観光局(JNTO)が考える持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)

地域の「環境」を守る・育む	地域の「文化」を守る・育む	地域の「経済」を守る・育む
・ 環境資源を最適な形で観光に活用している事例を情報発信 →自然や生物多様性の保全等に貢献	・ 地域の有形無形の伝統・文化資産等を魅力ある形で海外に発信 →外国人旅行者による体験等を通じて、伝統・文化の保存・継承に貢献	・ 日本全国各地への外国人旅行者の安定した誘客・滞在の促進 ・ 地域ならではの体験や特産品等の購入促進 →地域経済の活性化と安定的・長期的な雇用を創出し、住んで良し・訪れて良しの地域づくりに貢献

(出所) 日本政府観光協(JNTO)プレスリリース「SDGs への貢献と持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)の推進に向けて取組方針を策定しました！」(2021 年 6 月 21 日) <https://www.jnto.go.jp/news/20210622.pdf> より当行グループ作成

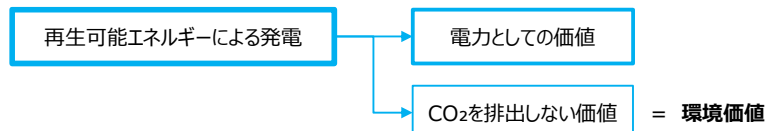
図表 5-3-2：外国人旅行者のサステナブルな取組みに関する意向



（参考）北陸新幹線敦賀開業の環境価値（試算）

- ・ 脱炭素の流れを受け、環境性能が高い鉄道は世界的に再評価されており、鉄道で 2.5 時間圏内の短距離航空路を廃止する(フランス)といった鉄道へのモード転換を促す取り組みが、欧州を中心に行われている。
- ・ 我が国においても、鉄道の輸送量当たり CO₂排出量が低いことは知られている。また、新幹線は、訪日外国人旅行者の人气が高く、北陸新幹線敦賀開業によって、北陸は、環境性能が高く観光資源ともなる高速鉄道ネットワークで東京と結ばれることになる。
- ・ 一般に、環境価値は、再生可能エネルギーによる電力が持つ発電時に CO₂を増加させないという付加価値のことであり、J-クレジットやグリーン電力証書、非化石証書は、その環境価値を証書化したものである。ここでは、CO₂排出量の差(増加しなかった量)を環境価値とし、その金額を試算する。
- ・ 具体的には、「つながる北陸」新幹線レポート vol.3 で敦賀開業が石川県にもたらす経済波及効果を 279 億円、「北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果」で福井県にもたらす経済波及効果を 309 億円、合わせて 588 億円と試算したが、その前提となる増加来訪者がすべて自家用自動車を利用した場合と新幹線を利用した場合を比較し、CO₂排出量の差(増加しなかった量)を把握、その量に CO₂単価をかけて、金額を算出した。
- ・ その結果、石川県内への来訪者増加で 3.7 億円、福井県内への来訪者増加で 6.1 億円、合わせて 9.8 億円の環境価値があると試算された。
- ・ 北陸新幹線敦賀開業は、石川県及び福井県において、588 億円の経済波及効果に加え、約 10 億円の環境価値があると評価できる。

【環境価値（イメージ）】



【試算方法（概略）】

項目	数値	根拠	出所
① 輸送量単位当たりCO ₂ 排出低減量	113 g-CO ₂ /人・km	自家用自動車130-鉄道17、コロナの影響排除のため2019年度の数値採用、自家用自動車の走行距離は鉄道の路線距離と同じとする	国土交通省ホームページ
② 増加来訪者数 石川県	首都圏 318 千人 関西圏 388 千人	—	日本政策投資銀行「つながる北陸」新幹線レポート Vol.3 金沢駅
福井県	首都圏 713 千人 関西圏 72 千人	—	日本政策投資銀行「北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果」
③ 距離	石川県 首都圏 451 km 関西圏 262 km	東京～金沢:261.9km、大阪～敦賀:136.9km、敦賀～金沢:約125.0km	yahoo! 乗換案内、福井県ホームページ
福井県	首都圏 555 km 関西圏 158 km	東京～金沢:450.5km、金沢～福井:約104.2km、大阪～敦賀:136.9km、敦賀～福井:約20.8km	yahoo! 乗換案内、福井県ホームページ
④ CO ₂ 価格	90 US\$/t-CO ₂	2030年価格	国際エネルギー機関(IEA)「Net Zero Roadmap 2023 Update」新興国・途上国(排出ネットゼロ誓約国)
⑤ 為替	148 円/US\$	2023年11月30日終値	yahoo! ファイナンス
環境価値(試算)	石川県 369 百万円 福井県 613 百万円 合計 983 百万円	=①×②×③×④×⑤	

(出所) 当行作成

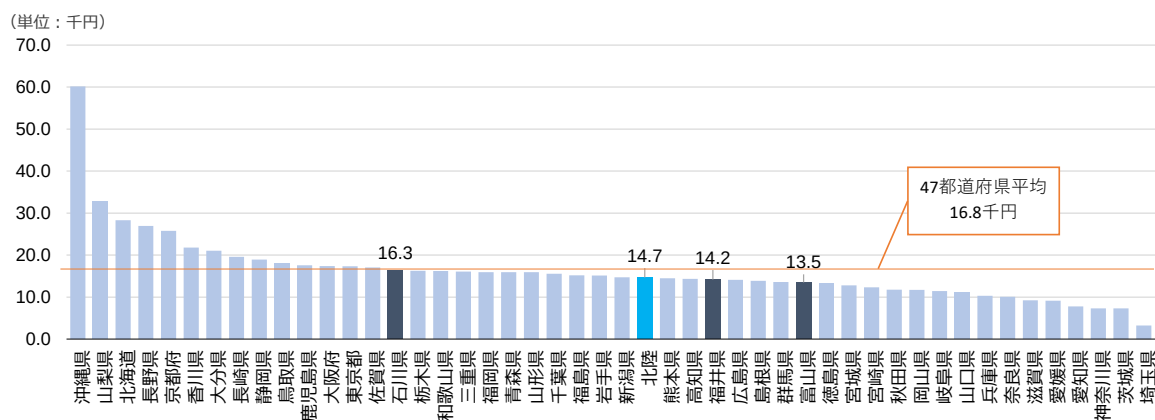
6. シン 真の新幹線効果へ向けて ～開業を契機とした「持続可能な地域づくり」～

- ・ 当行が「つながる北陸新幹線」をテーマにシリーズで公表してきたレポートは、本稿で最終となる。レポートでは、開業効果を最大限に波及させるため、以下 3 つの視点の重要性を述べてきた。
 - ① 入込客数の増加（資源の多様な組合せや新しい提示により、より多様な層への訴求力を高める）
 - ② 消費単価の上昇（消費スポットを増やし北陸エリアでの滞在時間を伸ばす。地域資源のストーリー性や付加価値を高めることで単価を上げる）
 - ③ 域内調達率の向上（サービスや人材を地域で育てる、地域の財を消費する）
- ・ 持続可能な観光に向けては観光サービスの付加価値額を示す「観光 GDP(※)」を高めていく必要があるが、人口一人当たり観光 GDP をみると、北陸全体では 14.7 千円と都道府県平均を下回っており、新幹線開業を契機に拡大する余地は十分にある【図表 6-1】。そのためには、歴史や伝統・文化、風土、地形といった有形無形の地域資源を活かし、それぞれの地域の個性を高め、その個性を北陸全体の魅力向上に繋げていくことが大切だ。開業を契機に、北陸地域の価値が域内外に発信され、多くの交流を生み出すことが期待される。
- ・ あわせて、地域住民の日常生活向上の視点も忘れてはならない。新幹線開業をきっかけに、駅周辺や商店街・観光スポットが整備される、二次交通の整備により移動がしやすくなる、まちづくりの担い手が育ち、賑わいが生まれる、新しい概念が地域の新たな価値をつくりシビックプライドが醸成される、選ばれる地域となり交流が生まれる、といった「持続可能な地域づくり」こそが重要であり、新幹線が地域にもたらす真の効果といえよう。単なる集客に留まらない、持続可能な地域づくりに繋がる観光振興に北陸一体で取り組むことで、北陸の観光産業の高付加価値化、ひいては北陸の地域力向上に繋がることを期待したい。【図表 6-2】

(※) 観光 GDP：国内で生産した観光サービスのうち付加価値額（稼ぐ力(収益)）。令和 5 年度「観光白書」では、持続可能な観光地域づくりのためには、地方の経済や雇用の担い手となるべき観光産業の、生産性の低さや人材不足といった構造的課題を解決するため、観光産業の「稼ぐ力(収益)」の強化が喫緊の課題としている。

図表 6-1 北陸の観光 GDP の位置づけ

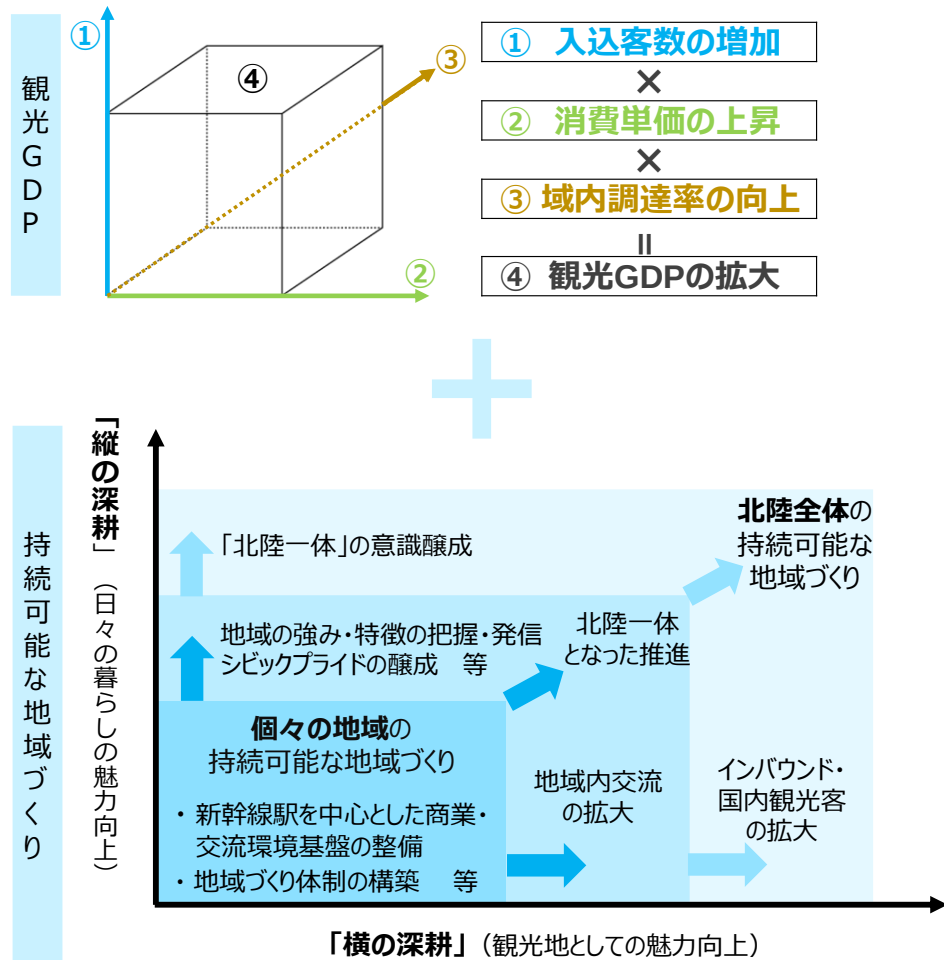
【人口一人当たり観光 GDP（2019 年）】



(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」、総務省「2019 年 10 月 1 日現在推計人口」、各都道府県の産業連関表等により当行グループ作成

(観光 GDP の試算方法・注意事項) 各都道府県の観光・旅行消費額(訪日外国人消費額を含む)を、各都道府県が提供する経済波及効果試算ツール(提供されていない場合には産業連関表から作成)を活用して試算。このため、使用ツールや産業分類部門など、試算の前提が必ずしも同一でないこと等に注意。

図表 6-2：真の新幹線効果に向けて



(出所) 当行グループ作成

【Appendix1】観光業を起点に広がるカーボンニュートラル

北陸経済連合会・(株)日本政策投資銀行「北陸地域のカーボンニュートラル実現に向けた具体的施策の検討に関する基礎調査」報告書より

観光業は、外からの所得の獲得に貢献する産業であり、地域経済循環の強化において重要な役割を果たす。また、炭素生産性が高いことから、CO₂排出量と経済成長の切り離し（デカップリング）のためには、その活性化が重要である。

北陸は、豊富な観光資源を有し、既に観光業の基盤は整っている。加えて、環境に優しい新幹線や鉄道、美しい景色を楽しむことができるウォーカブルやサイクリングなど、カーボンニュートラル時代に即した移動手段への需要が高まる中、2024年春に北陸新幹線敦賀開業が予定されており、3県の結び付き強化による新たな価値の創出が期待される。

既に豊富にある観光基盤・交流が、北陸新幹線敦賀開業を契機に強化・活発化し、それが地域のクリエイティビティを高めて、炭素生産性が高いサービス業が拡大するといったカーボンニュートラル好循環を創出するストーリーが期待できる。

【観光業を起点とするカーボンニュートラル好循環創出のステップ】

第1段階 観光地としてのポテンシャル

豊富な観光資源と、新幹線、鉄道、サイクリングなどカーボンニュートラルに即した移動手段も充実

第2段階 地域の結び付き強化によるイノベーションの誘発

北陸新幹線敦賀開業により3県の結び付きが強化
＝3県協働による観光における新たな価値創出の可能性

第3段階 北陸観光のブランド力向上

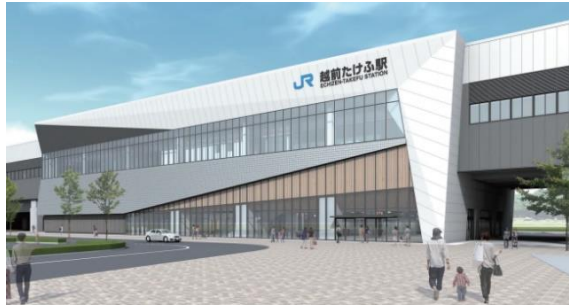
新幹線を軸としたカーボンニュートラル時代に即した北陸観光のブランド力向上

（出所）(株)日本経済研究所作成

（出所）北陸経済連合会・(株)日本政策投資銀行「北陸地域のカーボンニュートラル実現に向けた具体的施策の検討に関する基礎調査」報告書（51～52ページ）

<https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/62f907bfc1bc3e5a58f695c285d92988.pdf>

【Appendix 2】北陸新幹線敦賀開業により新たに設置される駅の概要

小松駅	加賀温泉駅
	
・ふるさとの伝統を未来へつなぐ『ターミナル』 ・慣れ親しんだ白山の雄大な山並みと未来を感じるターミナル ・松任谷由実氏、松任谷正隆氏が制作。小松駅に降り立つ人、小松駅を通過する人が、ふと空を見上げて元気になるような、マーチを感じさせる勇気が湧くメロディ。	・加賀の自然と歴史、文化を見せる駅 ・温泉郷の風情と城下町の歴史を感じさせる駅 ・松任谷由実氏、松任谷正隆氏が制作。短いメロディの中にある「加賀」という響きと「温泉」が相まった、いかにも雅で秘めやかな日本の風情が感じられるメロディ。
芦原温泉駅	福井駅
	
・あわらの大地に湧き出る贅の駅 ・あわら温泉の癒しと旅情が漂う駅 ・作曲家・堀田庸元氏（あわら市出身）が制作。竹田川や湧き上がる温泉をコンセプトに、光輝くあわら市の未来に向け、明るく、爽やかで、エネルギッシュなメロディ。	・太古から未来へ ～悠久の歴史と自然がみえる駅～ ・悠久の歴史を未来へつなぐシンボルゲートとなる駅 ・Symphonic「悠久の一乗谷」：葉加瀬太郎氏が制作。葉加瀬氏が一乗谷朝倉氏遺跡を訪れた際に感じた、明媚な景色と時間、山の手触りや谷を吹く風の香りを表現。
越前たけふ駅	敦賀駅
	
・伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅 ・コウノトリが飛翔する未来への道標となる駅 ・現代音楽作曲家・細川俊夫氏が制作。聴くたび楽しく、ユーモアがあり、うれしくなるメロディ。音響合成技術により「越前打刃物」の打撃音を作曲に活用。	・空にうかぶ ～自然に囲まれ、港を望む駅～ ・煌めく大海から未来へ飛翔する駅 ・「来い来い敦賀」：作曲家・佐淡豊氏が制作。明るく爽やかで聞きあたりのよい音調とし、敦賀駅のデザインイメージである「煌めく大海から未来へ飛翔」及び新幹線の疾走感を連想できる曲。

（出所）「北陸新幹線 金沢・敦賀間 地域に愛される駅をめざして」（JRTT 鉄道・運輸機構）、「北陸新幹線（延伸区間 6 駅）発車メロディの決定について」（JR 西日本）をもとに当行作成

（注）イメージ画下のフレーズは、上段がデザインコンセプト、中段はデザインイメージ、下段は発車メロディを示す。

【Appendix 3】これまで公表した新幹線/観光関連の当行レポート

公表年度	タイトル
2013	北陸新幹線金沢開業による石川県内への経済波及効果
2015	北陸地域における産業観光の可能性について
2016	北陸新幹線金沢開業による観光活性化が石川県内に及ぼす経済波及効果 － 交流がもたらす経済波及効果は 678 億円 －
2016	北陸地域における観光マーケティングの必要性 － DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より －
2017	北陸新幹線開業を契機とした金沢市内におけるホテル投資動向
2019	北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果 － 観光・ビジネス両面からの交流人口増加がもたらす経済波及効果は推計 309 億円 －
2020	富山・石川・福井県民のマイクロツーリズムに対する意識調査
2021	新幹線の経済・社会効果 ～2010 年以降の 3 県経済のふり返りから～
2021	新幹線の経済・社会効果 ～新幹線で動き出した福井市の街づくり～
【つながる北陸】新幹線レポート	
2022	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.1 越前たけふ駅 “the ECHIZEN” － 越前たけふ駅が呼び覚ますゲニウス・ロキ －
2022	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.2 福井駅 北陸新幹線敦賀開業に関する北陸・首都圏・関西在住者の意識調査 － 福井が開業効果を最大限活かすために －
2023	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.3 金沢駅 北陸新幹線敦賀開業による石川県内への経済波及効果 － 経済波及効果は推計 279 億円、金沢駅のハブ機能を高め全域への波及を －
2023	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.4 小松駅・加賀温泉駅・芦原温泉駅 北陸新幹線敦賀開業を契機とした温泉地のリブランディングに向けて － “伝統と新しさ”による多様な顧客の獲得を －
2023 【本稿】	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.5 敦賀駅 北陸新幹線敦賀開業を契機とした持続可能(サステナブル)な地域づくり － シン・新幹線効果に向けて －

レポートの全文は、当行ウェブサイトで公表しております。

©Development bank of Japan Inc.2023

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身の判断でなされますようお願いいたします。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：(株)日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 北陸支店 企画調査課（電話：076-221-3216／E-mail：hrinfo@dbj.jp）